

『京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略』の概要

目指す姿とこれからの山科区のまちづくりの方向性

「目指す姿」

住んで、働いて、訪れて、楽しく美しいまち・山科へ！

「これからの山科区のまちづくりの方向性」

- ① 若者から高齢者まであらゆる世代が住みよいまち・コミュニティの維持
- ② 子育て世代など新たな定住者を呼び込むまちづくり
- ③ 次代の山科の魅力を創り出すまちづくり

ポイントとなる5つのエリアと今後の方向性

①山科駅前エリア

【今後の方向性】

京都の東の賑わい拠点として、駅周辺商業施設の店舗構成の検討など、駅周辺を更に活性化するための方策を検討

②山科団地エリア

【今後の方向性】

子育て世帯を呼び込むとともに、大学との連携や学生との交流等による活性化、コミュニティ強化を図るための方策を検討

③新十条通沿道エリア

【今後の方向性】

山科の活性化・賑わいの創出、転入人口の増加を図るため、沿道エリアの有効活用を促進する方策を検討

⑤京都刑務所周辺エリア

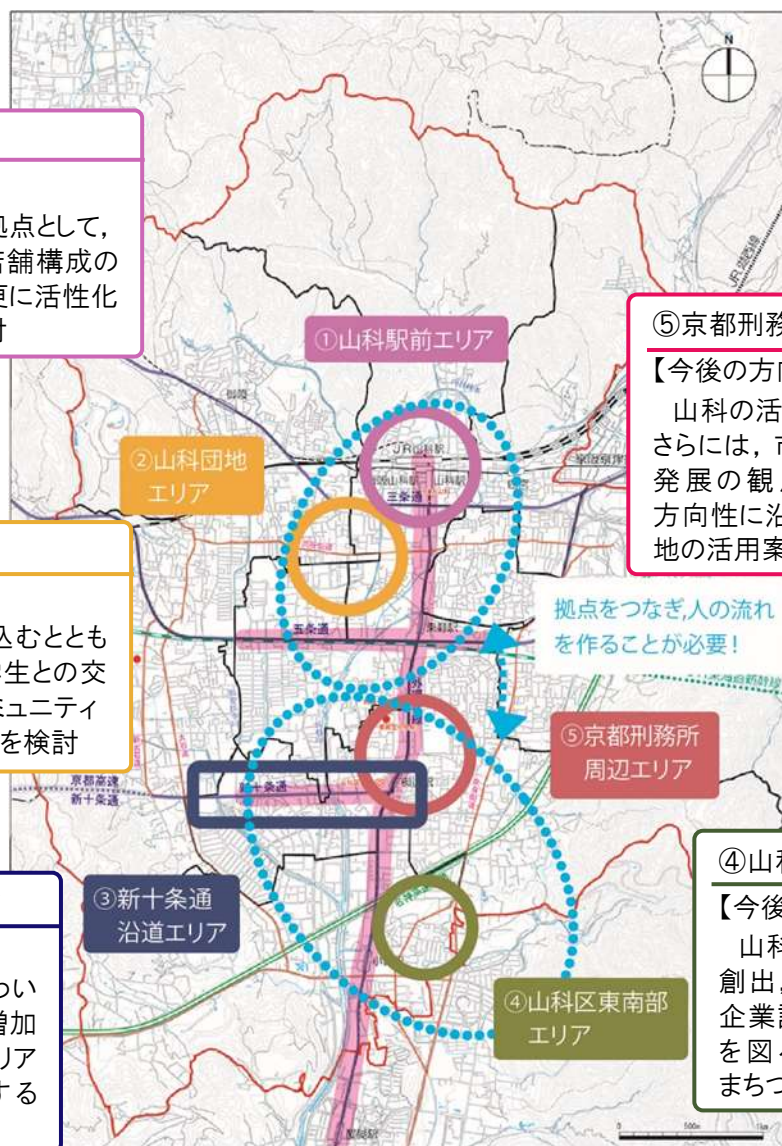
【今後の方向性】

山科の活性化の起爆剤として、さらには、市の将来の持続的な発展の観点から、まちづくりの方向性に沿って、京都刑務所敷地の活用案を検討

④山科区東南部エリア

【今後の方向性】

山科の活性化・賑わいの創出、転入人口の増加、企業誘致による雇用創出を図るため、この地域のまちづくりのあり方を検討



京都刑務所敷地の活用例(導入機能・施設の展開例)

敷地の活用に当たっては、

- ① 10.7haもの広大な敷地であることや、複合的な活用による相乗効果が期待できることから、単一の機能・施設での活用ではなく、以下に示す例のうち複数の機能・施設を融合した多様な活用が望ましいと考えます。
- ② また、敷地のポテンシャルを最大限活かすため、地下空間も有効に利用することが望ましいと考えます。
- ③ さらに、導入される個々の施設が周囲に対して閉鎖的でなく、外から見る事ができ、内外の交流を促進するよう、デザイン面での配慮や、周辺道路等の交通基盤のあり方、周辺環境との調和等についても慎重に検討する必要があります。

